令和６年度　久留米市文化芸術振興審議会　第２回会議（要旨）

１　開催日時
令和７年１月３１日（金）10 時～11 時 40 分

２　会場
久留米市美術館　１階多目的ルーム

３　出席委員（50 音順）　※8 名
井原委員、入江委員、内野委員（副会長）、木藤委員（会長）、日下部委員、西依委員、前原委員、矢次委員

４　欠席委員　※2 名
片山委員、翁委員

５　事務局　※11 名
市民文化部　廣松部長　　市民文化部総務　辻森主任主事
文化振興課　大鶴課長、中山課長補佐、中園主査
久留米シティプラザ担当次長　陣内次長
久留米シティプラザ事業制作課　平木課長
久留米シティプラザ総務課　江越課長補佐
文化財保護課　井上課長
公益財団法人久留米文化振興会　園内魅力推進課・企画広報課　古賀課長
美術館総務課　眞子課長

６　議事次第
１　開　会
２　委員紹介
３　会長・副会長挨拶
４　議　題
（１）　久留米市文化芸術振興基本計画（令和 2～7 年度）の総括（案）について
（２）　次期久留米市文化芸術振興基本計画の策定スケジュールについて
５　閉　会

議事録

１　開　会
■　事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。

２　委員紹介

■　委員、事務局（久留米市及び（公財）久留米文化振興会の担当者）を紹介。

３　会長・副会長挨拶

■　木藤会長、内野副会長より挨拶。

４　議　題

（１）久留米市文化芸術振興基本計画（令和2～7年度）の総括（案）について

■　事務局より資料１、２、３、４に基づき、久留米市文化芸術振興基本計画における各事業について、これまでの振り返り（実績に基づく自己評価等）を説明。

質　疑

○　矢次委員

・　事前に送付いただいた資料１はよく読ませてもらった。今回の総括は計画の大切な振り返りのステップということで、大まかな感想としては2点ある。まず１点目は、各事業の市内への目線は強いが、市外からどう見えているか。市外からの集客の目線が入ってきていないということ。
市政アンケートモニターや、来ていただいた方のアンケートを分析した結果ということで、どうしても市外からどう見えているかとか、その市外の人たちの集客とか、そこら辺のところがやっぱりなかなか、この中に入っていない。
2点目は、久留米市の文化芸術分野だけでなく、市の活性化のために動いているもので、他部署との連携がとても見えにくい。例えば、資料１の10ページ「坂本繁二郎生家活用事業」の③は、入館者数の総数が記載されているが、市内外の内訳などが分からない。生家は市内で唯一の武家屋敷であり、JR久留米駅から近く、市の観光でも重要な施設。市内の人に向けた活用も大切だが、これだけすばらしい施設は、市外の方からも注目していただいて、来ていただくアプローチをもっとしていって、この数字は伸びていった方がいいと思う。
また、JRや観光案内職の連携で、もっと生家のすばらしさが注目されると思うが、今回の振り返りの中では見えてこない。振り返りが内向きになっていて、アンケートだけでは外からの意見が分からない。
7ページ「音楽によるまちづくりの推進」でも、音楽フェスタは「焼きとりフェスタ」でも予算を取り、音響など準備してやっている。他部署でも音楽事業をやっていれば、情報を把握、連携して「音楽によるまちづくり」として支援するなど見えるといい。部署ごとに音楽フェスタをバラバラにやっているように見える。

●　事務局

・　坂本繁二郎生家の入館者数について、現在、市内外の集計は取れていない。アンケートも日常的には取っておらず、イベント時に実施している。ご指摘の外からのという視点は確かに少し欠けていた。坂本生家の運営については社会教育の部署でやっているため、まずは市民がターゲットとなるが、歴史は観光と親和性があるので、足りていない内容は連携を強めないといけないが、そのための分析が必要と思っている。

・　文化振興課が担当している音楽のまちづくり推進事業については、芸術奨励賞の受賞者やライ

ブチャレンジの出場者などを、市主催の光の祭典の前夜祭などのステージにも紹介させていただいたり、シティプラザのランチタイムコンサートに出演してもらっている。そうした連携でも音楽のまちづくりを意識して取り組んでいる。

○　矢次委員

・　そうした出演者の情報を各部署で共有するなど、連携のための事業があるといい。各部署で独立して事業をやるのも大事だが。

○　木藤会長

・　そうした視点は次期基本計画に盛り込むなど検討を。

○　入江委員

・　考え方を整理したいのだが、基本計画ではまず総括目標が大きな目標で、これを達成するために、各事業がぶら下がっているっていう理解でよかったか。また、資料 2 でみると、A 評価と B 評価の割合はどうなったのか。

●事務局

・　はい、資料も計画に基づく主要な 27 事業でご説明している。また、資料 2 では、再掲ということで、同じ事業名が複数行に出ているところもあり、そこにも ABC 評価を入れているが、全体では A と B 評価がほぼ半々、やや A が多いという割合になると思う。

○　入江委員

・　各事業の評価はどちらかというと目標達成しているというものになっているが、その一方で、総括目標自体は達成していなくて、なおかつその評価が下がっているという状況。そういったことを考えると、果たしてこの事業評価のあり方がこれでいいのかという。つまりギャップが生じている。事業評価が高いのに、総括目標には達してないということを考えると、こういう形でいいのだろうか。その辺の考え方を少しご説明してもらいたい。

●　事務局

・　基本計画の冊子 14 ページにもあるとおり、計画の推進は、総括目標の 3 つの目標に対する進捗で確認していく、と定めている。またその手法は市政アンケートモニターを使って、としている。

ただ、この総括目標についての判定だけでは、実際にどのように各事業が推進されたか分からないため、総括目標の判定とは別に、今回初めて、主要 27 事業の振り返りを、各担当課で作成し資料にまとめ、ご説明させていただいた。

今回の総括の考え方としては、総括目標については、すでにアンケートモニターの結果で、市民の鑑賞と活動、そして市内でその割合がこうだった、と数値が出ている。また、その結果に対して、これまで市が進めてきた各事業の取り組みがこうだったという実績がある。この事業の成果が、市民の鑑賞活動にどう繋がったのかどうか、影響があったのか、効果がすぐにあったの

か。そうしたことを考えるために、まず事業の振り返りの情報を出させていただいた。
各事業のこれまでの取組みについて、自己評価がＡまたはＢ評価となったことには、どうしても自己評価ということで甘い部分が出てしまっているかもしれないが、総じてコロナ禍の中でも感染対策や企画内容の見直しなどで実施に向けて努力したことが反映されている。
市政アンケートモニターと、各事業の担当課での自己評価をあわせて、総括案についてのご意見をいただきたい。

○　入江委員

・　今回初めて振り返りをやって、事業全体ではコロナ禍でも無事になんとかやった、というように見える。各事業の実施がどういう効果をもたらしたかというのは、なかなか数値を設定する難しさもあると思うが、そうした視点を取り入れながら、次期計画以降に検討されるといいと思う。

○　矢次委員

・　だとすると、総括目標と各事業が、連動していない。それを今後考えないといけない。やはり総括目標の置き方が、今後これでいいのかという議論していかないといけないのかなと思う。

○　井原委員

・　各事業ではＡ評価が多く、総括目標はＢ、Ｃ評価となるのが、残念に見える。事業の当初目的が達成されたのは素晴らしいことだが、総合評価とのギャップがあるのはどうしてか、ということがある。現計画の総括目標を設定した際は、計画７ページにあるように、平成30年度の基準を元に設定されたものだったと思う。その時はコロナや水害の影響は全く想定さえされていなかった。ギャップが生じた説明としては、目標値を目指したけれども、コロナで不可抗力の部分があった、ということも説明していいと思う。また、次回の目標設定についてもこうした状況をふまえてよく検討したらいいと思う。

○　内野副会長

・　資料１と２では、観客数などの実績のトータルが評価に結びついているが、資料３はアンケートなので、アンケートの実数と実態は、かなり違ってくるのではないかと思う。
アンケートに答える人が全員、実績に含まれる人であれば、それは、ジョイントした形で数として出てくると思うが、市政アンケートモニターはあくまでも不特定多数の人が対象で、アンケートでは、本当の実態を把握するものにはなりづらい部分があるのではないか。そこを少し何か考えられたらいいのではないか。なので、事業の実績ではＡが出ているけれども、アンケートではＢにしかならないとかいう結果になるのでは。

●　事務局

・　ただいまの委員の皆様のご意見のとおり、市政アンケートモニターはモニター数が600人程度と、市民全体のごく一部の人の意見を参考に聞くもので、各事業の効果がその人たちの意見にそのまま反映されているか、と見ることは難しいと考えている。

また、市政アンケートモニターは、各事業に参加する市民の側、受ける側の意見で、すべて市民からみた目標値になっているため、資料1，2にある、事業を実施する市側の努力は総括目標だけでは見えてこない。それもあって、今回初めて資料1，2を作成し、見ていただいた。
事業を実施する市側で把握する、入館者数、参加者数、目標に対する達成度といった実績値を、例えば目標時に新たに加えることになれば、また全然違った数字になってくると思う。
さらに、市の事業の効果が市民への効果として表れるためには、時間もかかり、文化に興味がある人かどうかや、年齢等によっても、受け取り方に差が出てくるものと思う。
総括案については、今回いただいたご意見をふまえ、再度整理をしたい。また、次期計画では、そもそもこの目標設定でいいのかということについても、ぜひご意見をいただきたい。

○　木藤会長

・　総括目標に対する達成度の評価がB、C、Bとなったことを見ると、うまくいってないように見える。しかし資料1、2の事業の中身を見ると、市はよくやっているな、とも見える。資料1，2のよくやった取組みを、もっと表に出していいのではないか。「総括目標」という言い方があまりよくないのかもしれない。市民の人がどれだけ参加したかと見る市政アンケートの結果と、市のやった事業に対する自己評価と2本立てで、例えば事業評価を半々で総括に入れるなど、書き方に工夫をしてもよいのではないか。

○　西依委員

・　資料1の10ページ「坂本繁二郎生家活用事業」は、評価がAとなっている。入館者数が増えてきているから、という理由なのか。客観的な評価になっていないのか。

●　事務局

・　入館者数だけの判断ではなく、自主事業が計画通り実施できたかなど、達成できたかどうかという評価になっている。

○　内野副会長

・　計画の事業は実施できたが、どういうことをやって、その目標を達成できたかどうかというところでの評価になっているので、総括目標の数値につながりにくいことを見ると、なかなか客観的な評価にはなりえないと思う。

○　矢次委員

・　そうした自己評価のABCだけで見てよいか、と諮るのも審議会の役割かもしれない。

○　井原委員

・　上位の総合計画について、資料4の5ページでも、年次ごとに入館者数を見せた方が分かりやすいのではないか。また、この総括目標の指標は、その前の指標と変わっているが、変わった意図があるのであれば教えてほしい。

● 事務局

・ ご指摘のとおり、総合評価でも、前回は市政アンケートモニターで文化芸術の施策の評価をしていたが、今では文化施設の利用者数という 1 つの指標に変わっている。変わった理由としては、当時の総合計画の審議会で、今回のような指標の設定についての意見のやりとりがあったと思うが、内容は把握していない。現在の指標は、主な文化施設の利用者数で数量的に把握できる指標となっている。総合政策の目標値については、今後進捗のまとめを確認しておきたい。

○ 入江委員

・ 今の総合計画の指標に関連して、美術館とプラザの入館者数となっているが、その内訳を教えてほしい。利用者数が伸びなかった理由が、美術館の休館だけなのかどうか、といったあたりがよく分からない。コロナの影響をどう見ているのか、ということも気になる。

● 事務局

・ 令和 5 年度の美術館・プラザの利用者数の内訳としては、美術館が約 5 万人、残りの約 17 万人がプラザである。近年の利用者数が伸びない理由としては、美術館だけでなく、プラザでもコロナ前ほど利用者数が回復していない状況がある。

○ 木藤会長

・ 総括の資料として別表で、美術館やプラザの入館者数を付けたらどうか。例えば資料 4 に、ブロックというか、参考資料、付録をつけるかどうか。前回もそうだったが、今回の総括案はほとんど文章なので、そこは表現だと思うが、資料 1 とか 2 をもっと簡潔にした資料などを、付録として付けるのかどうか。

● 事務局

・ 総括の見せ方として、市の事業の実績を表で入れるなど、次回の審議会で再度総括案を見ていただく時までに、再度整理したいと思う。

○ 木藤会長

・ 少し余談になるが、今の計画の目標をたてる際に、前から委員の方はご承知かと思うが、ちょっと高いところにしましょうという意見があった。今見ると、なかかなか高いところで是正をしたと思うが、あくまでも目標なので、少し高いところに、実績を踏まえて設定しようということだった。その後コロナ禍ということで、実績値がガクガクと上がって、なかなか回復していない部分もあるということが、推移表でも見える。少し高いところに目標立てようといった計画で進んできたことがあるので、あくまで努力目標として、平成 7 年度までの達成を見るべきかと思う。

○ 井原委員

・ シティプラザは建ってから 8 年が経った。大きな施設を建てる際は不安もあったと思うが、市はとても頑張っていると思う。これだけの実績を出すためには予算化も大変だと思う。なかな

か文化は数値では表しにくいが、総括目標が B、C 評価というだけでは…。総括は市の努力が反映される数値目標で、今後は徹底した方がいいかなと思う。

○　木藤会長

・　この議案（1）については、まだ色々と要望もあるかと思うが、またご意見をいただくということで、よろしいか。

（2）次期久留米市文化芸術振興基本計画の策定スケジュールについて

■　事務局より資料５に基づき、今後の策定スケジュールについて説明。

質　疑

○　木藤会長

・　前回の策定時に、上位の総合計画の原案を見たと思うが。

●　事務局

・　総合計画についても、令和 8 年度からの時期計画に向け、総括と骨子、原案作成が同時並行で進んでいる。次回の審議会では、総合計画の原案も参考に見ていただく予定である。

○　内野副会長

・　今回の総括や今後の審議会の検討内容を、市民向けに出すタイミングはあるのか。

●　事務局

・　資料５で言うと、市民（関係団体）の列に、パブリックコメント、市政アンケートモニターの実施を入れている。次期計画の原案までまとまったところで、今回の総括案を最終の総括として入れ込んだ形にして市民にお見せし、意見を取りたいと考えている。

５　閉　会

○　木藤会長

・　閉会の挨拶

●　事務局

・　次回の審議会開催について事務連絡

以上